

## 大阪国際がんセンター血液内科で「血液がんの原因と病勢を反映するバイオマーカーの探索とその生理的機能の解析」の研究にご協力いただいた方

### 研究協力をお願い

医薬基盤・健康・栄養研究所において下記研究課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の診療用に採取された血液や骨髄検体を用いて全ゲノム解析および免疫ゲノム解析を行う研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。試料・情報の使用について、直接ご説明して同意はいただきず、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究への試料・情報の提供を希望されない場合、あるいは、本研究に関するご質問は下記（7）の問い合わせ先へご連絡ください。

### （1）研究の概要について

#### 《研究課題名》

血液腫瘍における全ゲノム解析による免疫関連標的分子の包括的同定

《研究期間》理事長許可日～2029年3月31日

#### 《研究組織》

##### 研究代表者

医薬基盤・健康・栄養研究所 難病・免疫ゲノム研究プロジェクト 清谷一馬

##### 共同研究機関

大阪国際がんセンター 血液内科 横田貴史

#### 《意義》

白血病、リンパ腫、多発性骨髄腫などの血液のがんは、さまざまな遺伝子の異常が複雑に関わって発症・進行することが知られています。近年、遺伝子を詳しく調べる技術の進歩により、これらの異常を調べる研究が進んできましたが、これまでの方法では、複雑な遺伝子の変化や見つけにくい異常を十分に捉えることが難しいという課題がありました。

最近では、より長い遺伝子配列を一度に読み取ることができる新しい解析技術（ロングリードシーケンス）が登場し、これまで見つけにくかった遺伝子の異常を詳しく調べるのが可能になってきました。

また、がん細胞に特有の変化から生じる「がん特異的抗原」と呼ばれる目印や、それに対して体の免疫細胞（T細胞やB細胞）がどのように反応しているかが、がんの治療において重要であることが注目されています。しかし、血液のがんにおいては、これらの仕組みについてまだ十分に分かっていません。

本研究により、これまで明らかでなかった遺伝子の異常や免疫の働きについて理解が進むことで、将来的により正確な診断や、新しい治療法（特に免疫療法）の開発につながることを期待されます。

## 《目的》

本研究では、血液のがんの患者さんから提供いただいた検体（血液や骨髄など）を用いて、遺伝子の変化を詳しく調べます。さらに、がん細胞に特有の抗原（がん特異的抗原）を見つけるとともに、それに対して免疫細胞がどのように反応しているかを解析し、がんと免疫の関係を詳しく調べます。これにより、血液のがんにおける遺伝子の異常と免疫の働きの特徴を明らかにすることを目的としています。

## （２）研究の方法について

### 《研究の内容》

本研究は、医薬基盤・健康・栄養研究所を中心に、大阪国際がんセンターが協力して行う多機関共同研究です。

### 《利用し、又は提供する試料・情報の項目》

血液、骨髄、検査データ、診療記録等

《利用又は提供を開始する予定日》 2026年05月18日

#### ① 《提供する試料・情報の取得の方法》

血液、骨髄：通常診療で採取したものの残余検体。

#### ② 《試料・情報の提供方法》

試料：郵送

情報：パスワード付きハードディスクに入れ郵送。

#### ③ 《試料・情報の「提供元機関・提供先機関・利用機関」の機関名と研究責任者等》、 《試料・情報を利用する者の範囲》※委託機関を除く

| 研究機関の名称       | 研究責任者<br>(研究代表者には◎) | 提供する機関の<br>長の氏名 | 提供を行う<br>(提供元) | 提供を受ける<br>(提供先) | 利用する |
|---------------|---------------------|-----------------|----------------|-----------------|------|
|               |                     |                 | 該当する項目に○       |                 |      |
| 医薬基盤・健康・栄養研究所 | 清谷一馬◎               | 中村祐輔            | 該当無            | ○               | ○    |
| 大阪国際がんセンター    | 横田貴史                | 松浦成昭            | ○              | 該当無             | ○    |

#### ④ 《試料・情報を利用する者の範囲》※委託機関のみ

ゲノム DNA および RNA：株式会社 CPM などシーケンス検査会社

### 《試料・情報の管理について責任を有する者》

医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長 中村祐輔

大阪国際がんセンター 総長 松浦成昭

### 《本研究に用いた試料・情報の二次利用について》

この研究で有用な知見が得られた場合、今回ご提供いただいた試料・情報を用いて今後予定され

る別の研究に使用する可能性があります。後続の研究で使用する際は改めて倫理審査委員会において承認を得てから行います。また、当研究所のホームページ（<https://www.nibn.go.jp/introduction/disclosure/ethics-disclosure.html>）でその旨についての情報を公開いたします。

### **（３）個人情報等の取扱いについて**

本研究を実施するには、あなたの試料・情報から、あなたを特定できる情報（氏名、生年月日、住所等）を除き、代わりに本研究用の ID を付けることで、その試料・情報が誰のものであるか分からない状態にします。ただし、必要な場合に特定の個人を識別できるように、あなたと ID を結び付けることができるような加工をした情報を残します。なお、加工された情報は、大阪国際がんセンターの研究責任者により施錠できる場所で担当者によって厳重に管理されます。また、医薬基盤・健康・栄養研究所には、皆様の個人を特定できる情報が提供されることはありません。ゲノムデータに関しては、医薬基盤健康・栄養・研究所においてパスワード設定、あるいは鍵の掛かる場所に厳重に管理します。

### **（４）研究成果の公表について**

本研究の成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。また、本研究で得られたゲノムデータを公的データベースに登録し、国内外の多くの研究者と共有します。公表の際には個人が特定されることがないように、十分配慮いたします。

### **（５）研究計画書等の入手又は閲覧**

本研究の対象となる方又はその代理人の方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。ご希望の場合には、下記（７）の問い合わせ先へご連絡ください。

### **（６）利用又は提供の停止**

本研究の対象となる方又はその代理人の求めに応じて、対象者の方の試料・情報を本研究に利用（又は他の研究に提供）することについて停止することができます。停止を求められる場合には、下記（７）にご連絡ください。

### **（７）本研究に関する問い合わせ先**

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所  
難病・免疫ゲノム研究プロジェクト  
プロジェクトリーダー 清谷一馬  
〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ 7-6-8  
電話: 072-641-9811

大阪国際がんセンター 血液内科  
主任部長 横田貴史  
〒541-8567 大阪府大阪市中央区大手前 3-1-69  
電話: 06-6945-1181